

令和8年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標 Ⅲ 【 進路指導の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○進路指導担当者及びクラス担任が、学生の希望に沿った相談指導（就農、就職、進学）を行いながら、農業の良さを知ってもらうための講座、面談会、実習等を実施し、就農者の確保を図っている。また、雇用就農については茨城県農林振興公社と連携して個別相談会等を実施しているが、過去5か年の就農率は55.7%と学生の約半数に留まっている。 ○入学時には就農を目指しているが、卒業時には関連企業や他産業に就職する学生がいる。（R7年度卒業生 41人中、就農者 21人：21人/41人＝51.2%） ○果樹関係の求人がほとんどなく、果樹コースの学生にとっては、雇用就農を希望しても就農先が無い状況である。	○内部の就農支援体制を強化したうえで、茨城県農林振興公社及び担い手が不足している産地等と連携を強化し効果的に就農支援活動を実施する。	就農率の向上 就農率 60%以上
○進路に関する意識が低い学生や、年末や年明け後に初めて就職活動を開始する学生がいる。 ○年度末になっても進路が決定せずに、そのまま卒業してしまう学生もあり、過去5か年の進路決定率は97.0%となっている。	○早い段階から進路に関する意識づけを行い、学生の希望に沿った進路指導を実施する。	進路決定率の向上 卒業時進路決定率 100%

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

（1）就農率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
就農率 60%以上 【過去5年の平均 55.7%】				A	90%以上の達成
				B	75～89%の達成
				C	60～74%の達成
				D	45～59%の達成
				E	45%未満の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】内部の情報共有と就農支援強化 - 各学科及びコースの就農目標を設定する。 - 進路指導委員会を定期的に開催する。 - 農業経営士等を講師とした就農促進講座を開催する（5、7、12月）【R7実績3回】 - 自家就農及び新規参入就農希望者に対する研修会を開催する。（11月） - 就農事例をHP等に掲載する。 イ【拡充】茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援 - 就農への理解促進及び就農希望者と農業法人とのマッチングを実施する。（6月）【R7実績 1回】 - 農林振興公社が主催する新農業人フェアや就農相談会等へ参加させる（7、12月） ウ【拡充】先進農業派遣実習（2年生）を通じた進路指導 - 普及センターと連携し、就農後のロールモデルとなるような優れた農業経営者のもとで長期派遣実習を行う（8～9月） エ【継続】市町村、地域就農支援協議会*等と連携した自家就農及び新規参入への支援			

※地域の農業担い手確保・育成のため、農業改良普及センター、市町村、農業委員会、JA、農業者などで構成された組織 ・産地の現状や支援内容を確認し就農意欲を醸成するため、産地研修会等に学生を参加させる。（5、6、11月） 【R7実績3回】			
---	--	--	--

（2）進路決定率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
卒業時進路決定率 100% 【R7実績97.6%】				A	90%以上の達成
				B	75～89%の達成
				C	60～74%の達成
				D	45～59%の達成
				E	45%未満の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】早い段階からの就農、就職意識の醸成 ・学生の進路進捗動向を把握し、適切な進路指導を実施するため、就農・就職進路進捗調査を毎月実施する。（5月～） 【R7実績8回】 ・当校に求人のあった企業等とのマッチング会を開催する。（10月） 【R7実績1回】 ・早期の進路決定や意識啓蒙を図るため、1年生に対し就職セミナーを実施する。（3月） 【R7実績1回】			